

令和8年度までの目標	国語		算数	
	自校A B層の割合	50.0%	自校A B層の割合	40.0%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制や交換授業を実施し、教員の専門性を高める。 「江戸小10の学習ルール」をもとに、学習規律を指導する。 毎時間の授業を「つかむ・考える・学び合う・まとめる・振り返る」の展開で行う。 具体物を活用した考え方の共有。 巡回司書と連携し、探究的な学習（調べ学習）で活用できる図書資料の支援。 年5回の研究授業の実践。 毎学期の授業公開ウィークでの教員同士の学び合い。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テストを年4回実施する。 算数では、授業開始の5分間でタイムアタックを実施し、基礎となる四則計算力を養う。 国語では、漢字の読みと書き取りの「漢字テスト大会」を年3回実施する。 思考ツールを活用して考えを整理する力を養う。 「ことば」に関する図書の充実。季節の言葉、オノマトペ、詩などの絵本や図書を増やし、国語等の授業での活用や読書月間での読書を推進する。 学習が定着していない児童に、スタディウィーク期間中に放課後個別指導の時間を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、音読・漢字・計算の家庭学習を設定する。ドリル学習はミライシードを活用して行う。 週2回自主学習を設定し、児童自身が知りたいことや身に付けたいことを考えて取り組ませる。また、クラスでMVPを紹介する。 欠席者がいた際は、国語や算数の授業の板書と連絡帳の内容をTeamsにアップする。 読み聞かせを充実し、読書習慣の定着を目指す。 「総合百科事典ポプラディア」等のデジタルコンテンツの使い方を習得させ、特に高学年で、調べ学習や自主学習等で活用させる。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 全学年統一した授業の流れにし、学習に取り組みやすくする。 単元の学習計画や1単位時間の授業でフローチャートを示して見通しをもたせる。 教材の視覚化、発問や指示の簡素化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数では、習熟度別のコースにし、支援が必要な児童に個々に指導する時間を確保する。 放課後補習事業の実施。 タイムアタックは、児童の実態、進度に合わせた課題を用意する。 欠席児童へ国語・算数の板書をTeamsで公開し、学習の保障をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークを1日10問など、家庭と連携して設定した課題を実施し、ていねいな評価、フィードバックを行う。 自主学習の手引きを活用することで、苦手な児童でも取り組みやすくする。 ノートの書き方が素敵な児童を全体に紹介する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査（設問58）「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」肯定的な回答80%以上 学校評価「学校授業は、分かりやすい。」の肯定的な回答90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テスト7割達成者、低中学年70%以上、高学年60%以上 まとめ漢字テストでの正答率8割達成者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査（設問20）「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」肯定的な回答80%以上